



みらい経営グループ

あなたの繁栄が私たちの喜びです！

税理士法人みらい経営レポート

521号

今月の視点

老いの覚悟、「卒寿」を迎えてーパートⅡー ～私の尊敬する真田新之助税理士先生の随筆～ ※10月号の続きです

ー老いの覚悟ー【3】

ボケへの考察をしてみましょう。誰もボケたくないことは分かっています。しかし、ボケは向こうからやってきます。自分からボケることはまずありません。ではどう防げばいいのか考えてみましょう。

(1) 俗説に惑わされてはいけません。まずはボケとは何かを考えてみましょう。

医学的にはアルツハイマー型認知症と言うものと、脳血管性認知症と二つの型があると言われています。前者をA型後者をB型とします。早期に対策を施せば防ぐことができるそうです。

A型の認知症は問題です。徐々に向こうからやって来ます。定年退職して家にこもりきって、何もしないと確実にこんにちはと言って、脳に入り込んでいきます。そして記憶の木を食い始めます。木は枯れて家族の顔もわからなくなります。何かをすることです。脳に隙間を作ったりしないように、過去の頭を使って仕事をしていたころの、作業に近いことから、楽しみを見つけてそれを新しい楽しみにすることです。

(2) 物忘れ、置忘れがひどくなった。

いよいよボケが始まった。と自分が意識できるようならば、心配はいりません。

「お父さん、何を言っているの。今食べたばかりなのに。」など食事をしたことを忘れてしまう。

「お母さん、礼子おばさんは2年前に亡くなっているわよ！」と仲の良かった妹に会いたいと言い出してしまう。

この2例はアルツハイマー型の典型です。老人性認知症と言われるもので、両者ともA型です。この2つは進行性ですので、治療によって進行を遅らせることができます。なるべく早く、心療内科か精神科の病院へ連れていき、治療を始めるべきです。家族の力が必要になります。絶対本人を責めてはいけません。

【みらい経営グループ主催望年会のご案内】

異業種交流会兼望年会を開催いたします。

日時:平成30年12月14日(金)17時30分受付開始

18時～19時 落語家 雷門福三氏による公演

題目「名古屋噺」

19時～21時 望年会

会場:レストラン「白鳥物語」地下鉄日比野駅より徒歩15分

※望年会のご案内は同封の案内状をご覧ください。

軽度の内は本人がボケの怖さを意識できますから、「ボケてはダメだよ！」と言うように責めては、恐怖心を抱かせるので、家族は優しく一旦「そうだね。」と言っておいてから、上の例で言えば少しだけご飯を漬物だけで食べさせるとか、礼子お婆さんはもういないの。2年前にさようならと言って遠くへ行っちゃったの、とその場はごまかしておきます。

そして、早く医師に相談して今後の処置を相談します。このことを本人は家族に「俺が変なことをしたり、やったりしたら、きちんと医者に見せてくれよ」と平素から話しておくことも大切です。

(3) ボケやすい人、ボケやすい職業

心療内科の先生はボケに対する「経験則」を持っています。

ある医師の本から借用してお知らせしましょう。これまでたくさんの方から相談を受けたり、お世話してきたりしたことから、私なりの経験則に従ってお知らせしましょう。

①ボケになりやすい人。学校の先生、定年後夫人を亡くした先生、公務員

確かに私の周りにも、元校長先生、元教頭先生、など過去に確かに頭がよくて聡明だった人が、退職して意欲を無くすと途端にボケに一直線、となった人がいます。

公務員も聡明で仕事もバリバリとこなしていた人が、仕事を無くすと途端に毎日何をして過ごしたらいいか、わからなくなりさまよってしまうことがあります。こうなると哀れです。

②休みをうまく使えない人はボケやすい。意欲を失った人は絶対ボケます。

今度の休日にはあの山を歩こう。次の土曜日には孫の顔を見に行こう。とか今度の連休には、孫と将棋の手合わせをしたい。等々自分の周りの人とコミュニケーションを上手く取り、会話が多くできる環境に身を置くように努めましょう。こういう体と脳の使える環境に入り込む意欲を、絶対なくしてはいけません。そして、それを実行に移すことで、ボケを追い出せるでしょう。

③家族、遊び仲間、などとの付き合いの少ない人。

「粗大な記憶障害」と言えるボケは息子の顔もわからなくし、自分の居場所もわからなくなります。新築のマンションに入ったお父さんが「ここはホテルだろう、俺は帰るぞー」と大声で叫びだし、マンションから出ようとする。こうなるともう大変な悲劇です。

特に奥様を亡くした元公務員の人、元教員にこういうケースが多いようです。家族からも今まで以上に疎外されてしまい、孤独感からボケが始ってしまいます。一番の理解者だった奥様を亡くすと、その速度はものすごく速くなります。

④過度の運動、脳刺激は危険です。

運動と言っても絶対その本人の体に合ったものにすることです。散歩も限度を決めて歩くことです。ジョギングは老人には勧められません。

殺人現場、自殺の現場、などの刺激の強いテレビ画面を見せないようにすることも大切です。以前ボケた親父が息子の嫁に突然襲いかかって、問題になったケースがありました。ものすごく舅の行動が乱暴だった為、嫁が怪我をした事件でした。その後で息子が帰ってきて親父を殴って、親父は俺はだれにも殴られるようなことはしとらんと、喚き散らして嫁を指さし、あそこに家内が帰って来たということのようでした。こうなると悲劇の舞台の始まりです。

—老いの覚悟—【4】

老後のお金について考えておきましょう。老いの覚悟②でお金のことは書きましたが、ここからは死んでからどのようなことにお金が必要になってくるか例を上げて考えましょう。

例：家族構成 ・本人元公務員70才（健康状態良好で65才から近くの法人へ経理事務補助として勤務し、現在に至る。今回完全退職になる場合）

- ・妻66才 ・長男43才 ・その配偶者40才
- ・孫①高校3年生 ・孫②中学2年生の6人家族
- ・大都市の郊外に築20年の一戸建てに同居

まず、近いうちに予想されるのは孫①の大学入学金です。親の負担と片付けてしまうか、祖父が相応の金額を出してやるか、を考えます。この場合、大学の入学金350万円のうち200万円を祖父が出すとしても、直接祖父が出した場合贈与税はかかりません。しかし、一度父が350万円支払って後日、父が200万円を祖父から貰うと、贈与税の対象になります。これらを注意して、弊法人などの専門家に相談してから行う方がよいでしょう。

退職金の蓄えがあると思われるので、資金は十分あると思われます。又、直接祖父が200万円助けてくれたとその孫が思えば、祖父に対する尊敬が生まれるでしょう。年寄りはこのときの為に、資金を確保しておく必要を忘れてはいけません。なおかつ下の孫②が受験や入学で資金が必要なときに援助してやれると、祖父、祖母は家族の中で居心地がよくなるはずで

す。年寄りには、周りに家族や仲間という話し相手、茶飲み相手が絶対欠かせないです。そのためにはお小遣いも必要です。年寄りが絶対してはいけないことは、年をとってからのギャンブルです。ブレーキが効かなくなり、妻に内緒で競馬に手を出し、あっという間に500万~1000万円ほど負けてしまい、どう奥様に言い訳したらいいか、というような相談がきてもお答えはできません。

次に大きな出費は家のリフォームです。家族からの提案で、家を3階建てにして1階に老夫婦が居住し、2~3階に若者家族が住む形の二世帯住宅にしたいという場合です。建物は祖父名義なので、1000万円ほどのリフォーム代の負担が出てきます。それをすんなり出せる祖父でありたいです。

さらに孫二人の教育費も増えてきました。祖母が退職金からへそくりをして、孫の学費を祖父に内緒で援助することもあるでしょう。それらを感謝してくれている嫁である事を願います。

そんな中、祖父が脳梗塞で倒れてしまいました。幸い軽度だったので大事に至らず、病院へ入院し、リハビリを続けることになりました。保険があるといってもそれなりに費用は出てきます。もう孫たちの学費を負担できません。そうなるこの家族は、老夫婦にどのような接し方になってくるか考えてみましょう。これまで老夫婦からの援助に、若者達が感謝をしてくれていたのか、それともしてくれるのが当たり前と考えていたのか、長男夫婦と孫たちの考え方と人間性が問題です。

お金も無くなり、動きも鈍くなった老夫婦を長男の家族はどのように扱うでしょう。頼りにしていた退職金も底をついてきて、ギャンブルにつき込んだことを祖父は誰にも話していません。祖母は不思議に思いながらも、祖父の介護を続けています。前項で考えたように感謝して接してくれるか、当たり前が出来なくなると冷たく接してくるのでしょうか。この家庭では前者だったとしましょう。「おじいちゃん、頑張って早く良くなってね。」と孫が声を掛けてくれると、祖父は嬉しく思い、良くなろうという意欲も出ます。冷たく接せられると落ち込んでしまうでしょう。現代社会の家族は皆自己中心的ですから、期待しない方が良いでしょう。

次に来るのは本人の葬儀です。200万円~400万円はかかりそうです。お寺との付き合いが密であると、お寺は戒名代、伴僧の僧侶の数などで100万円以上かかる場合があります。個人の人脈にもよりますが、家族葬で済ませるなど出費を抑える家族もいます。おおよそこれで老夫婦の資金はなくなります。子供の家族が元気で年寄り思いであれば、祖母一人が残っても安心でしょう。

今、終活ということで死亡後に残された家族が苦労することのないように工夫する勉強が流行しています。死んだ本人には分かりませんが、残された人に後で慕われるよう願っています。

一 老いの覚悟 一 【5】

今から28年前に、あるホスピスの院長先生が書かれた「老いの大盲点」という文庫本が私の書庫から出てきました。実に読みやすく、示唆に富んだ、医師としての考え方も豊富で、私のような門外漢にも興味深く読めて参考事項も多いので参考にさせていただきます。

定年を間近に迎える男性は、退職後の時間の過ごし方を考えておくべきです。毎日が日曜日だ、などと呑気なことは言っていられません。奥様と過ごす時間が多くなることについて考えた人はほんのわずかです。会社の上司や同僚先輩などと過ごすのとは全く違います。先生の著書によると、ある奥様の場合、ご主人の定年前に次のような条件を出すことも考えた方がいいよ、と書かれてありました。

①最低限自分の身の回りの世話は自分でやってほしい

持ち物の整理整頓、靴磨き、手入れ、自分の朝食準備、汚れ物の洗濯場所への運び入れなど自分の身の回りことはなるべく自分でやってほしい。

②おしゃれに気を使ってほしい

清潔を心がけ、病気で禁止以外は必ずお風呂に入ってほしい。洗髪が嫌いなのに、整髪料やコーンを使わないでほしい。スーツ以外はなるべくコーディネートされた清潔なものを着てほしい。

③趣味を持ってほしい

旦那の顔を日々間近に見ていると息が詰まるので、お互い楽しめる趣味を持ちたい。それぞれお互いの趣味を持って、お互いが干渉せずに自由時間を過ごすようにすることも考えてほしい。

④健康管理に協力的であってほしい

手作り料理で妻に感謝の気持ちがあるのなら、たまに夕食の主食を何にするか意思表示をし、夫の健康を考えているということに感謝をして「美味かった」と言う表現をしてほしい。

⑤月に一度は夫婦で外出をしたい

夫婦で映画やイベントなどへ行き、季節ごとに国内旅行、可能であれば年に一度海外旅行へ連れて行ってほしい。行き先の情報収集も共にし、二人で過ごす機会を増やしたい。

⑥基本的なマナーやエチケットを身に付けてほしい

歳をとったらそれなりにジェントルマンでいるよう心掛けてほしい。宴会に呼ばれて食事するとき、グループで集まったときに下品な冗談を言ったり、大声で笑ったり等、気を付けてほしい。

⑦妻への評価をしてほしい

手料理やお茶などがおいしいとき、ヘアスタイルが変わったときなどに褒めてほしい。何か気に入らない事があるときは、柔らかく注意して、妻のおかげという何らかの意思表示がほしい。

なかなか痛いところをついていると思いますが、こうした妻の要望を無視していると、いざ老後になったときに何もしてもらえなくなる危険性が出てきます。会社で出世した人ほど奥様の復讐が怖いといいます。仕事をしていた頃の奥様の様子をどのくらい把握していたでしょう。奥様はこまめに時間を使って、忙しく家を守ってきたというという自負があります。その自負を評価し、「お前には感謝している」と言いながら死ぬのが最高だと思いますが、苦痛を和らげるためにモルヒネを打たれて意識が朦朧としていたり、認知症が進んで奥様や子供の顔も分からなくなっていたら、その思いは伝えられません。

これからの時代、いずれにしても定年後20年～30年くらいは生きていかねばなりません。昔のように子供が親の面倒を見ると期待ができない時代になってしまいましたので、万一入院するような事態になったとしたら、誰がどのように面倒を見てくれるか、自分の死に方まで考える必要が出てきてしまいました。夫婦のうち、どちらかが先に死んだ場合、それこそ孤独死の危険性が十分考えられます。もしそうであっても誰にも看取られず、白骨になってから見つかるようでは悲惨です。何とか平安無事で残りを生きたいです。完

拝受：石川 光男

～みらい経営グループよりお知らせ～

本年**社会保険労務士法人 みらい人事経営**が業務開始します。
今まで以上に皆様の経営にお役立ちできるよう日々邁進してまいりますので、
今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

今月のセミナー ※各セミナー、前日までにFAXにてお申込みをお願いします。

1. 『 将軍の日～中期経営計画立案セミナー 』

11月20日(火) 将軍の日 ～第57回～(残り5社まで)

12月 4日(火) 将軍の日 ～第58回～(残り5社まで)

12月22日(土) 将軍の日 ～第59回～(残り5社まで)

時間 10:00～18:00

会費 1社につき54,000円 (昼食代込)

※1名追加毎に3,000円

場所 みらい経営3Fセミナールーム ※終了後、有志による交流会有り

※お申込みは1週間前までにお願いいたします。

2. 11月21日(水) 平川忠雄DVDセミナー

『 来年の消費税率の引上げに向けて 』

講師 柴田 和浩 時間 17:00～18:00

会費 会員 500円 その他 1,000円

場所 みらい経営3Fセミナールーム ※終了後、有志による交流会有り

熱田・港倫理法人会のセミナー お問い合わせはみらい経営まで TEL 651-6000

1. 11月22日(木) 第652回 経営者モーニングセミナー

テーマ 「 会員スピーチ 」

時間 AM 6:30 ～ AM 7:30

会費 無料

場所 金山ゼミナールプラザ

2. 11月29日(木) 第653回 経営者モーニングセミナー

テーマ 「 倫理が与えてくれたチャンス 」

～お役で好転した人生～

講師 黒田 太郎 氏

時間 AM 6:30 ～ AM 7:30

会費 無料

場所 金山ゼミナールプラザ

※倫理法人会セミナー、事前申込みは必要ありません。

受付で「石川光男の紹介です」とお伝えください。

※会場…金山ゼミナールプラザ 〒460-0024 名古屋市中区正木3-7-15

TEL 052-331-6411

11月の税務と労務

- ・ 9月の決算法人の確定申告、納税 期限(11月 30日)
- ・ 3月の決算法人の中間申告、納税 期限(11月 30日)
- ・ 3月の決算法人の消費税の中間申告 期限(11月 30日)
- ・ 10月分源泉所得税納付 期限(11月 12日)

税理士法人みらい経営 名古屋オフィス (発行元)

税理士・中小企業診断士 社会保険労務士・行政書士 石川 光 男
〒456-0051 名古屋市熱田区四番二丁目14番34号
TEL 052 (651) 6000 FAX 052 (652) 0066
ishikawa@ishikawakk.or.jp

税理士法人みらい経営 半田オフィス

税理士 榊原 睦
〒475-0928 半田市桐ヶ丘一丁目89番
TEL 0569 (26) 1566 FAX 0569 (26) 1569
mbara623@k6.dion.ne.jp

止め、救急車を呼んでもらいました。救急車が来ると、先に私が運ばれましたが、親友が運ばれなかったのを疑問に思いながら救急車に乗りました。

気が付くと、私は緊急手術室で手術を受けており、術後も気を失いました。次に目を覚ますと家族が私のもとにおり、家族も現実を受け止めていなかったと思います。その後、病室で家族に親友の事を聞いたら、「心の準備は出来ている??言うからね。亡くなったよ…」と言われ、私は頭の中が真っ白になることもに、親友が救急車に運ばれなかったのは亡くなったからなのだと思うと、ショックで泣き出してしまい、入院中も事件の記憶や親友が夢に出てきました。

数日後、家族から親友の告別式に参加したという事を知らされました。数週間後に退院し、事件現場にお花を供え、ご遺族の自宅へ謝罪に向かいました。ご遺族は私を責めず、「逆の立場だとしたら、私達はご遺族は私を責めず、

することも出来ない。やってしまったことは仕方ないから後は誠意を見せてくれればいい」と仰ってくださいました。

その後、私は警察に出頭し、逮捕されましたが、やがて保釈され、裁判まで毎月命日にご遺族の自宅と親友の墓前でお焼香をさせて頂きました。

裁判では、懲役3年の判決が下り、1人の尊い命を奪ったのにたった3年なのかとご遺族は思ったに違いありません。

事件から3年が経ちますがご遺族は日々悲しくつらい思いをしていると思うと、胸が痛くなります。刑務所に服役している私よりも比較にならない苦しみをしているはずです。

受刑生活の開始から2年4ヶ月経ちますが今まで家族が私の代わりにご遺族の自宅と親友の墓前に伺わせて頂いており、私の責任なのに関係のない家族まで迷惑を掛けています。

今回の事件のご遺族との示談は成立していますが、刑務所で改善指導を受け、ご遺族が私に掛けて下さった言葉もご遺族が私を許してくれているのだらうと勘違いをしていることに気がきました。

ご遺族は私のご事を許すはずはないので、これからも私の出来る償いを続け、再犯をしないことを誓います。

(注) (二財) 東京交通安全協会発行「贖いの日々」
— 交通事故はもうたくさん —
から転載したものです。



あがな
贖いの日々

未熟者

S・T 22歳 運送業

平成26年のある日、時刻は午前1時ごろ、私は取り返しのない事件を起こしてしまいました。

私は車を運転することが大好きで、公道を高速度で車を走らせ、競い合うという漫画やアニメ、ゲームが好きでした。そして、いつか自分も速くて格好いい車に乗りたいという思いがありました。

事件前日の午後8時を過ぎたころ、車やアニメが好きで、小学校から高校までいつも一緒にいた親友から、私が購入したスポーツタイプの車を見たいという連絡が来ました。私も車を自慢したいという気持ちがあり、お互い仕事が終わった後で疲れしているのにも関わらず、私は親友のもとへ向かいました。

親友と合流し、特にあてもなく、ドライブをしました。夜も遅くなり、親友も「次の日も仕事だから帰

りたい」と言い出したため、帰宅することにしました。帰り道は交通量も少なく、走り慣れた道であることから、私は車を高速度で走らせているうちにお互い気分が高揚してしまい、急な右カーブを大丈夫だろうと時速120kmで進入しました。

しかし、自車のコントロールを失い、カーブを曲がり切れず、ガードレールに衝突してしまいました。私は目を覚ますと、車は横になっており、身体はシートベルトに締めつけられていましたが、無我夢中で脱出しました。

そして、すぐに親友を捜そうと周りを見ると、道路の端の方に倒れていました。すぐさま胸に耳をあて、心臓が動いていたのを確認し、救急車を呼ぼうとしましたが、私はパニック状態だったため、自力で呼べず、偶然通り掛かった車を呼び

十一月のテーマ
積極的に生きる



え・城谷俊也

大事な物事は 二段・三段構えで

前 号の「今週の倫理」では、「つねに代案を持つ」という提言を掲載しました。「反対や批判をする時は、代案を示すことがより積極的な生き方であり、成長する人間とは常により代案を提示できる人」という内容でした。

今週はその「代案を提示する積極的な生き方」を、倫理運動の創始者・丸山敏雄の生活の中を探ってみましょう。

『丸山敏雄 人と思想』は、敏雄の思想や行動について、実子である丸山竹秋が著述した書籍です。本書の第三章には、敏雄が親代わりとなった甥・悟の受験に際して、その心がけを指導した書簡が掲載されています。

この書簡について、丸山竹秋は次のように読み解いています。

実に細かく書かれてあるのだが、これらはほかならぬ敏雄自身の進学、受験の心構えであろう。「二部の方はかゝつて置け」とあるところからみても、後年によく主張した「物事は二段構えで」という慎重さが出ている。「その学校に入るんだ

ぞと肚を決める」とか、「ここが出来ねばあそこにする」というようなのはいけないといって、万一という場合の処置も考えておき、更に決心を固めてかかるのである。肚の決め方と慎重な手段というのは、実に矛盾するのでなくて、ひとつの道行きの両面にほかならないのだ。

引用中に「敏雄自身の進学、受験の心構え」とあるのは、広島高等師範学校を出た敏雄が、教壇に立ちながらも、大学進学を視野に入れていたことを指すと思われる。そして、実際に、37歳の時に広島文理科大学に入学したのです。

こうした代案を示す積極的な生き方は、以降、弟子たちにも大切な教えとして伝えられました。

大切な客を迎えるために、自分の代理として弟子を駅へ向かわせた時のこと。三人で迎えに行つたにも関わらず、入れ違いになつて帰ってきた弟子に対し、敏雄は以下のように述べたと、弟子の一人であった矢頭俊一が書き遺しています(『丸山敏雄言行録集II』)。

大事なことはすべて二段構え

三段構えということがある。お客をお招きするとか、出迎えるには、かならず最上級の人を迎えるつもりで、どんなことがあっても失礼のないようにしなければだめだ。いいかげんなお招きならばやめたほうがよい。だから相手が七時に着くといってきたら、その一つ前の汽車も、一つ後の汽車もしらべて、もし何かのついでで早くなつても遅くなつても、決して失礼のないようにするのがお迎えするものの倫理である。相手が間違えたのだからしかたがない、といつてすませるようなら、お迎えにはならない。

この言葉からは、敏雄が常に二段構え、三段構えで物事に臨み、飽くなき自己成長を目指していたことが窺えます。

丸山敏雄は、与えられた人生を積極的に生きるために準備を完全にする、代案や二段構え、三段構えも含め、想定できることには事前に対処しておくことの大切さを私たちに教え遺してくれました。こうした教えを活かし、積極的な人生を歩みたいものです。